

# DOKU-GAKU 揭示

関東でもこの冬初めての雪が降りました。

関東地方以外では異例の大雪が続いている日本列島。

それなのにあれしきの雪についじたばたしてしまいます。

大好きなハングル講座休んじやいましたよ。

まだまだ好きが足りないのかも。あ～あ。

## タツノオトシゴ

6周年記念号 (VOL. 36) の発行オメデトウございます。

今回の表紙、何故か物凄く印象深い感じがします。(ホワイトバンドが利いています)

時間と歴史が封じ込まれた、そんなメッセージが伝わってきました。白い余白にも色々と事情があったのですね・・・(タツノオトシゴ好みのデザインです)

心理学シリーズも、次の段階へと変化させなければ・・・

次女が大学の卒業論文に「青少年の非行や、人格と犯罪など」をテーマにして毎日遅くまで取り組んでいます。(私には一切聞いてこないのですが・・・)

どんな事を書いているのか、興味深々です。(今度、原稿依頼をしてみようかな?)

前々回の写真は、皆さんの気に入って頂けましたでしょうか?

うさおさんや Tomy Jr. さん以外のご意見も聞いてみたくなりました。

「ご近所トマソン隊かなあ」の最後に、水引の写真が写っていましたが、私ならこれに<可憐>という題を付けてみます。(当然文章の前後に関連させて・・・)

師走に入り、講師稼業も佳境に入っています。

その間を縫って、修士論文や DOKU-GAKU 原稿を書くのは中々大変です。

「DG 感想文」を読んでいると、「なるほど、人によって色々な効果があるのだなあ」と感じています。“由佳”さんの「趣味に生きているわ」という気付きや、“Tomy Jr”さんの「継続は力なり」というメッセージに励まされ、“日出彦”さんの「DG の中で謎の部分」に興味を惹かれます。<綾の鼓>という懐かしいタイトルに、私も手元の4冊を読み返してみました。(残念ながら創刊号が見当たりませんでした)

“ゆうこ”さんの世界は「17文字の清涼剤」です。“うさお”さんが時々「楽屋裏の話」を見せてくれるので、楽しく参加させて頂いていますが、企画の仕事量をこなす手際良さには感心してしまいます。(いつもお世話をかけているので、懺悔します)

リレー連載の「執筆者の素顔」：矢澤洋爾の巻は大変面白く観させてもらいました。

な～るほど！さすがテクニシャンですね(^ ^)、一枚位、他人の写真が入っていませんか？  
名前の由来や、生活体験からの姿が想像できます。ビートルズファンだったのですね！  
今度、好きな曲をテーマに関連付け、何か書いてみてくれませんか？

今月の「好奇心漫遊記」はとても面白く読ませて頂きました。数の知識として、ある程度知っているつもりでも、具体的なモノとして数えることはあまり無いのです。身近な数えられるモノを尺度に、「これならどうだ！」とチャレンジしています。  
何気なく挿入されている写真も味わいがあります。（タツノオトシゴ好み？）

かずくんの「2005映画鑑賞 Calender」をみて、自分の青春時代を思い出しました。  
渋谷の全線座、池袋の人生座、新宿の名画座などを梯子していた予備校時代が、試写会の切符を2枚手に入れ、好きな子を誘えなかったほろ苦い思い出・・・  
「ALWAYS 三丁目の夕日」は見たい映画です。2月と11月の部分で1本ずつ、私も同じ映画を観ています。さて、それはどの映画でしょう？（年間に数本しか観てませんが・・・）  
ヒント：主演は二人とも若い男性です。

「ビーズな毎日」も15回も続いているんですね～え！  
毎回、作品を眺めながら、「どんな人達が買ってるんだろう？」と思っています。  
今回、フリマの写真が見れて、大分雰囲気は分かってきました。京都の東寺では毎月「弘法大師の命日」に境内で市が立ちます。売っているものは骨董品ですが値段はさまざまです。玄人さんは拡大鏡を手に、ネクタイピンやカフスボタンを選び象嵌の入った金やダイヤを狙っています。（モノは違いますが雰囲気は似ています）  
大阪でも、古い民家を改修したアンティークなお店の中で、しゃれたネックレスやブレスレットを売っています。買っていく人は、その場の出会いを大切にしています。

“ゆうこ”さんは17文字のマジシャンです。  
うさおさんは、おだてて褒めればもっともっと上達します。（私が保証します？）  
秋の風情は、「ちょっと物寂しさ」や「季節の移り変わり」に目が行きます。  
夏の間は緑色一色の野山が、それぞれ違う色に変化していきます。これは人間の個性と似ているような気がします。“何気なく、さりげなく”観察すると、色々な個性が見えてくるのでしょうか。（人間と自然との触れ合いが、情緒の発見に・・・）

“由佳”さんの「まねまね写真館」、どこまで行くの？  
「天真爛漫」とか「穏やかさと凶暴性」など、多くを飲み込んでいるのでしょうか。  
これから次男はどのような人生を送るのでしょうか？取材してみたくになります。  
シンガポールに、「タイガーバウムガーデン？」という面白い公園があったと記憶しています。  
色々なアミューズメント施設があり、色々な動物も・・・

機会があったら、是非ご家族で（治安もよく、料理も美味しい小国です）

“タツノオトシゴ”は旅行好き、そのルーツは小学生の頃まで遡ります。

何せ電車や汽車に乗って遠くに出かけるのが大好きでした。そのうちに写真を撮ったり、スケッチをしたりに興味が生えてきます。

高校生になってからは、勉強よりも趣味の世界に没頭しています。

「写真班」と「鉄道研究会」の掛け持ちで、“鉄チャン”ぶりを発揮した時期もあったのです。高崎線などは、最後まで蒸気機関車のD-51や9600が現役で過ごした場所です。まさかうさおさんが同じ世界で仕事をする事になるとは考えてもみませんでした。700系の「ドクターイエロー」ありがとう。(^^)/^

## 由佳ちゃん

みなさま

風邪が大流行していますが、みなさまは大丈夫ですか？

ところで vol.36 のまねまね写真館では調子に乗りすぎました（汗）

視界に入ったものはとりあえず真似をして写真を撮るのが習性の私には、ショッカーや仮面ライダーや動物のまねはごく当然でしたが、こうやって並べると、かなりというか、まるっきりアホです（大汗）

見苦しいものをお見せしてすみませんでした。。

タツノオトシゴさんに、執筆者の素顔で私がどんな素顔を見せるかすごく不安と言われてしまい、私も心配になってきました。

ま、のほほんと行きましょう（笑）

TICA ちゃんと yuko さんが創作している中、ビーズな毎日をずっとお休みしていてごめんなさい。

たまーに作ってるのだけれど、友達に頼まれて同じものばかりを作ってます。新しい作品を開拓しなきゃね☆

## うさお

6周年かあ。いつの間にか引きずり込まれ、のめり込まされ、他人をも更に引きずり込み、オウム真理教のようだ。いつかメンバーの誰かをポアしちゃおう。

さてさて、6年間の歩み、TICA さん集計ご苦労様。結構膨大な資料をこんなに纏め上げるのは大変なことです。でも面白かった。「きらきらひかる」なんてやったなあ。こんなコアなドラマ。読書数はまたトップなのにマンネリになったから何の表彰もないのね。

DOKU-GAKU感想文、執筆者って結構このDGを真剣に捕らえているのねっ、てことが判る。net 上の付き合いでもないのに、メンバー同士、一面識もない人もいるのに面白いねえ。オフ会なんてやらないもの、どんな人が判らない。

逆にこのDGを通して相手を見るので、自分のイメージで相手のキャラクターを作るところ

があり、そこがまた恋のようです。(この表現にちょっと恥らっています！)

矢澤さんの執筆者の素顔、う～ん、矢澤さんは独創性のある、凝り性の人だとは思っていました。全くその通りの人です。同じようなご性格だと思いましたが、Tomy jr. さんとは違う切り口が面白かったです。やはり矢澤さんと言えば「幸福論」、いつか揮発性幸福論をお願いしたいところです。ペンネームの由来が力が入っていてとっても面白かったです。(若い時の矢澤さん、結構素敵です。)

映画カレンダー、かずくんが執筆。これからどんどん書き込んでいって欲しいな。以前にも雅子様の写真とか掲載がありました。なにしろ、沢山映画を見る人なので是非ともコーナーをお願いしたいです。

ビーズな毎日、いまやTICAさんのライフワークともなったようだ。YukaさんやTICAさんは、頼まれるだけではなく生徒さんを集めてビーズ学校を開いちゃえばいいのに。バックグラウンドに省吾を流してさっ。生徒さんからなぜ「ビーズ」じゃないんだって文句言われてさ、フリマで物々交換している場合じゃありませんよ。個人的には図書館で借りてくる本の葉が欲しい。17文字の抒情詩、毎回、田舎の髪結いで申し訳ありません。(結うだけは結う：言うだけは言う) 駄作でも数撃ちやそのうち、物になるものが出来るでしょう。それまでは宗匠、広いお心で…。広いお心で…。健ちゃんが病床に倒れてしまったので、うさおがピンチヒッターで(鬼のいぬ間にせっせと投稿) 頑張っちゃいますから…。今回は漸く一句褒めていただきました。飾っちゃいます、パソの脇に。「軒先の稲束揺れて一人かな」

心理学シリーズ、うさおは人が苦手なので、人と接するのは結構苦痛です。後ろのほうで黙って観ている方が好きです。ですから他人の心のケアなど大変苦手です。たつおとさんやyukaちゃんのように、精神介護系を志す人は他の人以上に強靱な心を持つことを要求されますよね。…そのような強靱な心の持ち主への心のケアは誰がするんでしょうね。

(あの、お二方は見た目は大変繊細そうなんですよ…。)

まねまね写真館、yukaちゃんの面目躍如足りとする写真館で圧巻です。撮影したジンジンは、周りの人達の好奇の目に晒されていかばかりだったか。こんなお母さんの元で、子供達は何処に行っても物怖じしない、世界に通用するグローバルな人に育つのでしょうか。素晴らしいことです。いやあ、身内でなくて良かったなあ。

ご近所トマソン隊かなあ、帷子川の分水路は横浜と言う都市部においていきなり現れるものだから、何かノスタルジックなものを感じますねえ。こういうの好きですが、家の近くにあったら誰かが水に嵌まりそうで心配の種かも。煉瓦の説明にエクセルのセルを使いました。ふふっ。アネックス、「あたいよ」って言われましても、TICAさんの姿、見えませんから。お店の中に米兵がいて、話し掛けられなくて良かったですね。「パパ、ママ、ピカドン、アイム ハングリ、ハングリ！」なんてのはもう通じませんよ。

好奇心漫遊記、数の表記、数学者らしい矢澤さんの不思議ですね、うさおの友達は生まれた女の子に「那由他」と名づけました。大きな女の子に育っていると思います。TVのコマーシャルに80分しか記憶が出来ない数学者の映画がありますが、「恒河沙」位しか数えないうちに記憶が絶たれて、最初から数え直しになっちゃうんでしょうか。

ミスチルばかぼんど、え〜、らい君の尻尾が…う〜可愛いです。古畑うさおです。  
表紙は語る、表紙には元絵があって、それをパクってコラージュしている。だから、同人誌だからいいけど、webになんか載せたら、著作権法違反で直ぐ官憲の手が入るね。この中では、Vol. 30、31 が好きです。

【チャングムの発音に関する疑問です】

## Cacco

장금 (チャングム) 名前

- ①장금 에 チャングム+エ→チャングメ (チャングムに)
- ②장금 이 チャングム+イ→チャングミ (チャングムが)
- ③장금 아 チャングム+ア→チャングマ (チャングムちゃん)

というふうになり、次にくる助詞によって発音が違って来るわけです。③の場合は「ちゃん」と表現しましたが、ごく親しいもの同士はこう呼び合うようです。冬ソナヒロインはユジンといましたが、**유진+아** (ユジン+ア) の場合は「n」と「a」が重なって独特の優しい響きになります。「チャングマ」はなんかあんまりかわいくないですよ。

次に韓国語は最初の音以外は皆濁音になります。소장금 (ソ・ジャングム) とフルネームだと濁る音になります。イ・ピョンホン氏も名前だけならピョンホンになるわけです。ハングルマメ知識でした(´\_`;) ちょっとおまけにうさおの好きな宮廷美女たちのおっきい写真を載せておきますね。



このひとは誰でしょう。  
「チャングム」を演じているイ・ヨンエです。はっきり、別人です。  
「親切なクムジャさん」も見てください。  
「ラストプレゼント」も泣けるのです。

← 同じ人だよ →



## ☆ 公開質問コーナー ☆

**Cacco** より **矢澤洋爾** さんへ質問です。

○ 先日「綴り字のシーズン」という映画を見ました。

一両親にも教師にも期待されていなかった11才の女の子が、校内の綴り字(スペリング)コンテストでいきなり優勝。州大会、全国大会と勝ち進んでいく過程を横軸に父母兄それぞれの神へのかかわりが描かれる—こんな内容の映画なのですが、このスペリングコンテストっていうのが、よくわからないのです。たとえば「スクール」と審査員が問題を出すと「S・C・H・O・O・L」と答えるのですが、これって難しいものなのですか？そりゃわたしには難しいですが、アメリカ人が母国語を綴るだけ。日本人が「学校」と読み上げられたものを「がっこう」とひらがなで書くだけという感覚とは違うものなのではないでしょうか？アメリカではテレビ放送もされる一大イベントらしいです。

ついでに映画は中途半端な感じで面白くなかったです。家族の崩壊もイマイチ伝わらないし、なぜ立ち直ることができるのかもよくわかんなかったな—。かずくんが懸賞で当てたチケット。文句言ってごめんなさい。☆☆

ついでのついでにもうひとつ。「博士の愛した数式」もかずくんと見に行きました。これは面白かった！ルートと呼ばれる数学教師（吉岡秀隆・北国の純）が子供の頃「博士」と出会った思い出を授業をしながら生徒に語ります。友愛数、完全数、素数。数学って神秘的なんですね。胸ときめきました。数字の専門家矢澤さんが見ても面白いのかなあ。何も知らないわたしにはとても運命的に感じられました。阪神タイガースのファンにはこたえられない映画でもあります！

☆☆☆☆☆

矢澤さん解答お待ちしております。

次号企画は**お休み**です。みなさん次の企画に向け英気を養っててくださいね。

では3月標準号をお楽しみに！

2006年1月27日発行

発行人 読書を楽しむ会

印刷・製本

c's工房 &

M's

factory